

▶ 第13章

## 東アジアの気候安全保障リスク\*

京都大学大学院総合生存学館 准教授

関山 健

### 【ポイント】

- ▶ 気候安全保障とは、気候変動が引き起こす紛争や暴動から国や社会を守ることである。気候変動は、それによる異常気象や自然災害が人や社会にとって直接の脅威となるだけでなく、水資源などの不足、移民の発生、食料生産や経済社会生活の混乱など、様々な経路を通じて間接的にも紛争のリスクを高める。
- ▶ 東アジアでも、気候変動に伴い、①数千万人規模の移民発生が招く地域の不安定化、②沖ノ鳥島、東シナ海、日本海などの領海・排他的経済水域（EEZ）を巡る対立の激化、③ヒンドークシュ・ヒマラヤ氷河融解による国際河川（メコン川、インダス川、ガンジス川など）の水流減少が招く上流国と下流国の対立、④豪雨・洪水に起因する内乱、⑤脱炭素に不可欠な資源・技術を握る中国の影響力増大——など多くの気候安全保障リスクが予想される。
- ▶ 東アジアの気候安全保障リスク低減のため、日中両国政府には、アジア諸国の気候変動適応力向上支援や気候変動対策に協力して取り組むとともに、気候変動に伴う懸念事項を協議するハイレベル政策対話の創設を提案したい。



### 東アジアの主な気候安全保障リスク

#### 環境移民

海面上昇や気象条件変化 ⇒ 移民・難民発生 ⇒ 移動先で対立  
(e.g., バングラデシュから2050年までに最大2000万人が移動)

#### 領海・EEZ

海水温・海水面の上昇 ⇒ 海域を巡る対立

#### 水不足

ヒマラヤ氷河の融解⇒メコン川等の水流減少⇒上流・下流間で対立

#### 豪雨・洪水

気温上昇⇒海水蒸発増加⇒豪雨・台風激甚化⇒暴動・紛争を誘発

#### 地政学的影響

e.g. 北極圏の海氷融解、脱炭素による資源・技術優位性の変化

出所：筆者作成

\* 本稿は、JCER 2021 年度「アジア研究」報告書のために、東アジアの気候安全保障リスクと日中協力の観点から、関山（2021）を全面的に加筆修正したものである。